

2009年10月29日

---

シンポジウム“未来への挑戦”  
グリーン・ニューディール  
- 世界、そして日本はどう変わるのか？ -  
パネルディスカッション

---

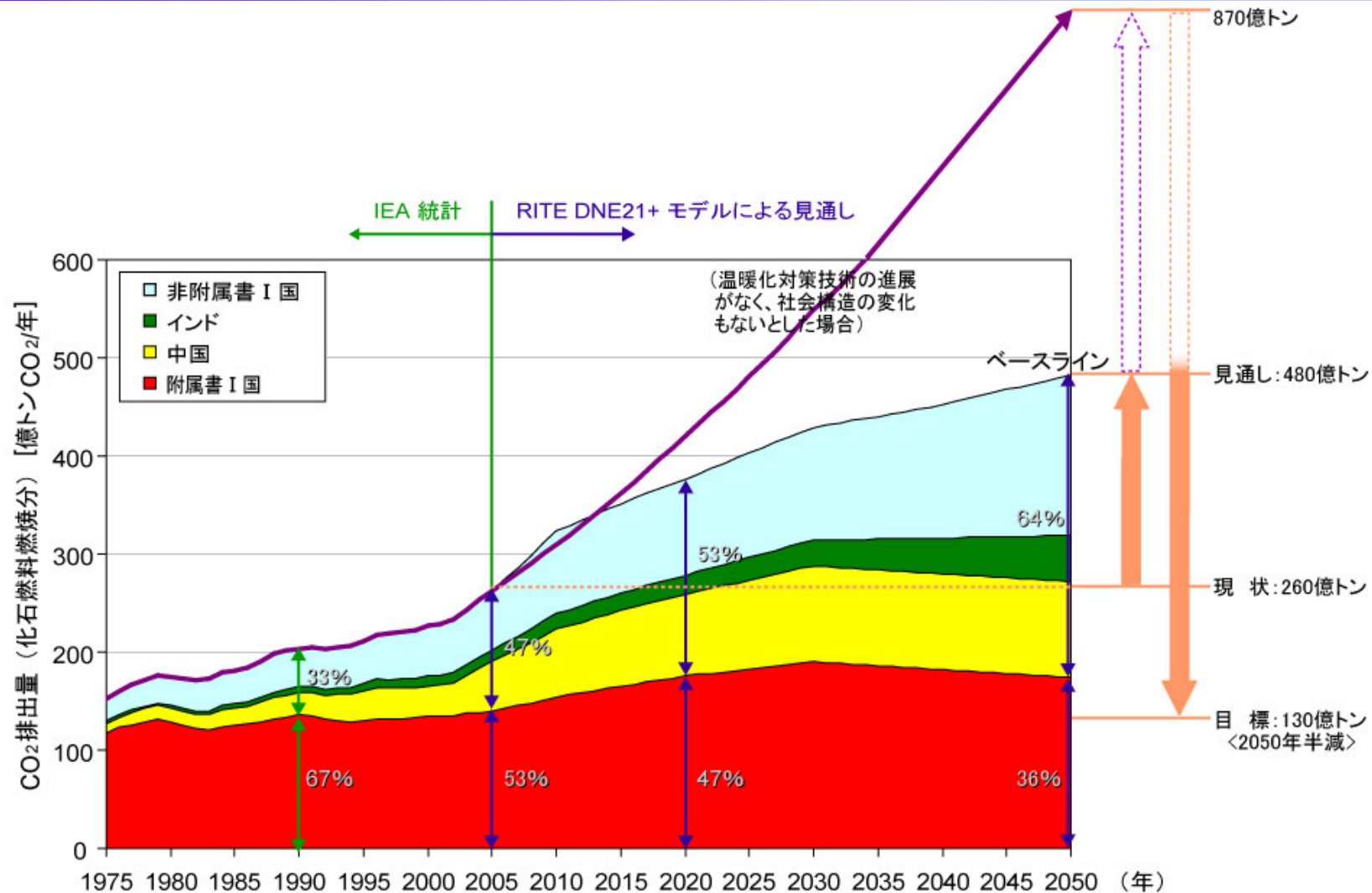
(財)地球環境産業技術研究機構 (RITE)

システム研究グループ グループリーダー

秋元 圭吾

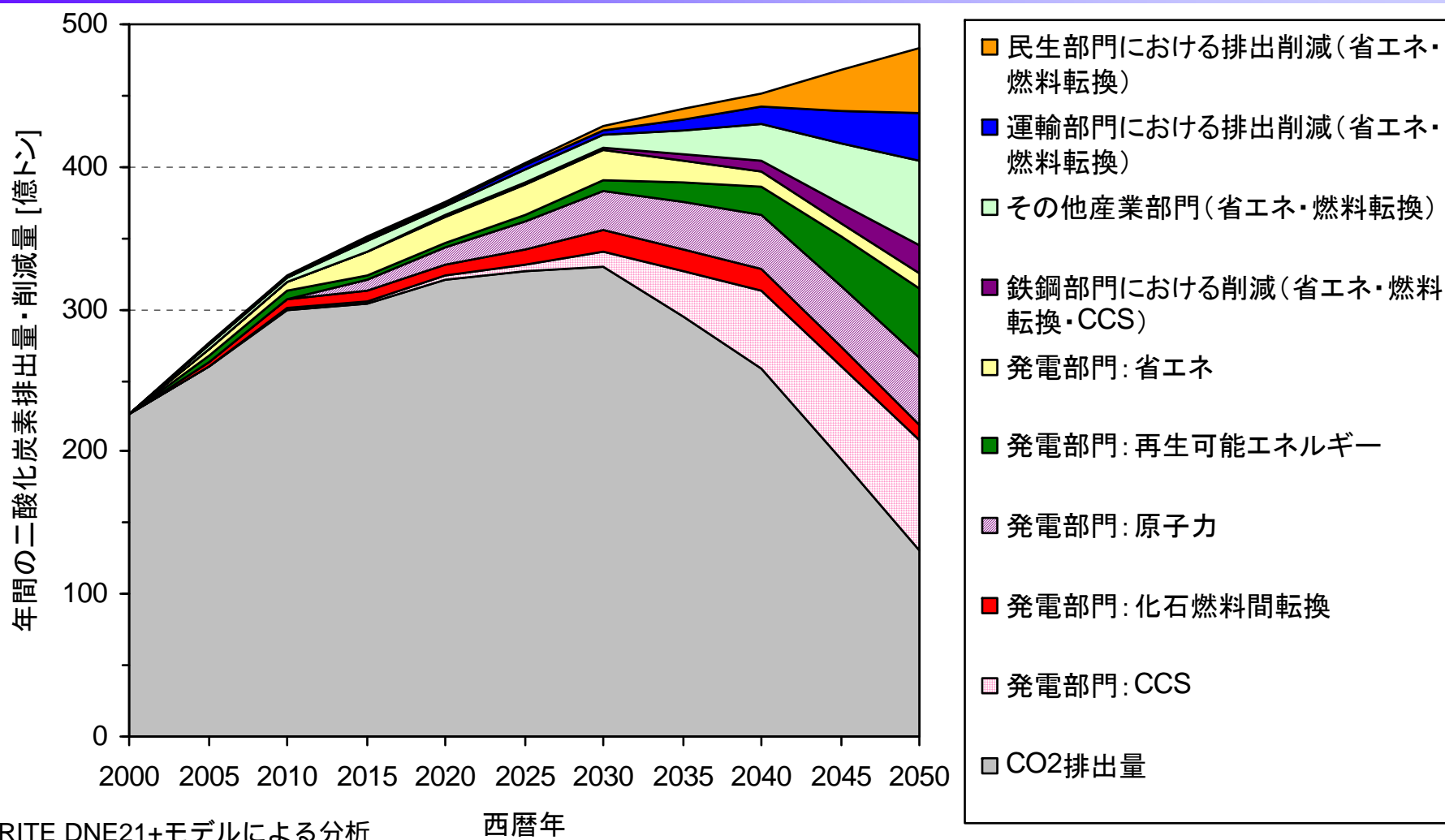


# 世界排出量は今後も大幅な増加が見込まれる



- 途上国の排出量が急増しており、今後も拡大が見込まれる。
- 2050年半減は、今後2倍以上に排出増が見込まれるところからの削減が必要であり、革新的技術の開発・普及なくしてその達成は不可能

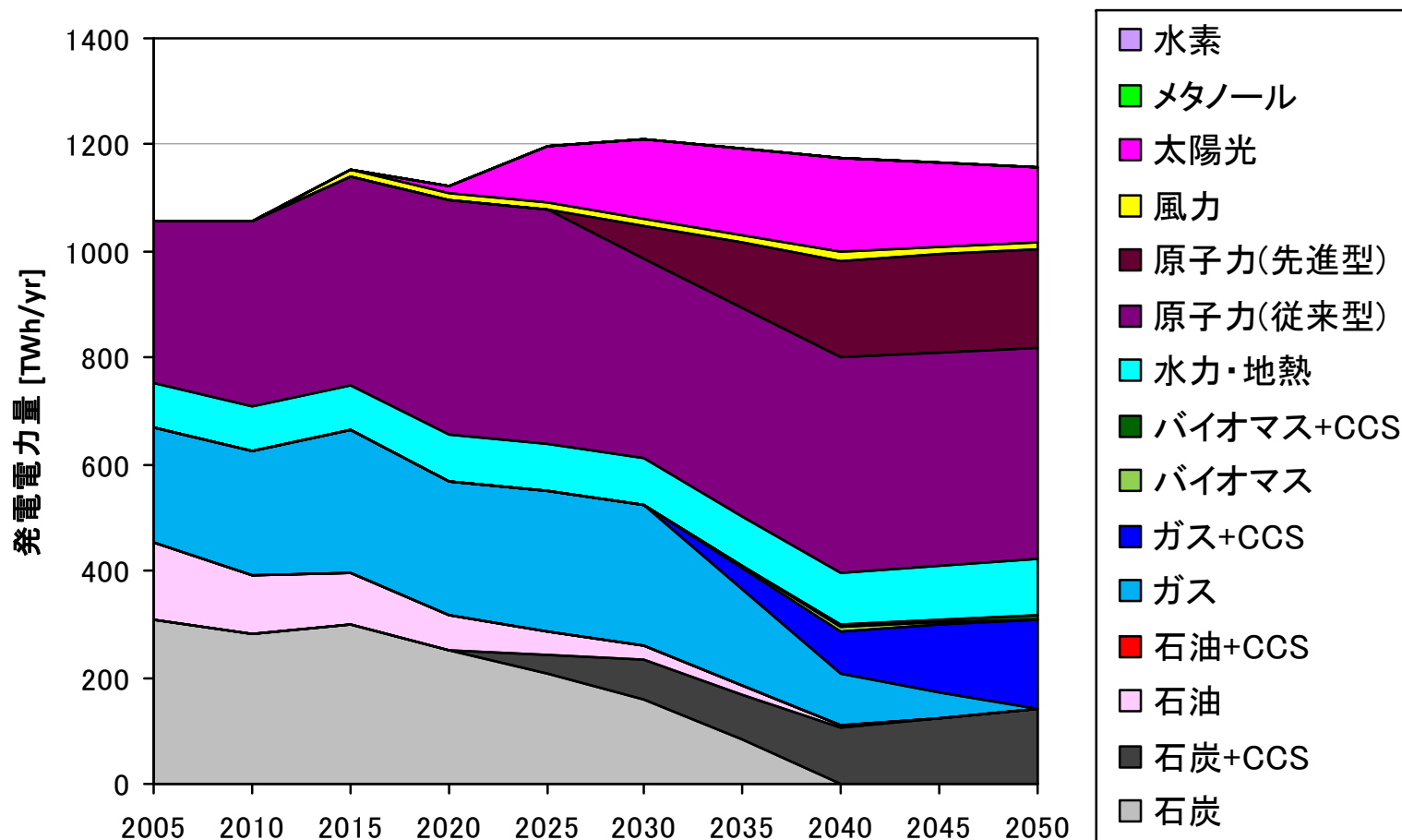
# 2050年世界排出量半減に向けて



- 各種技術の適切な組み合わせが必要
- 2050年世界排出量半減は「技術的には」可能であるが、費用負担面などから、多様な世界においてこれを実現していくことは相当な困難が伴う

# 2050年に日本の排出量60～80%削減に向けて

## 日本の発電電力量の見通し（2020年05年比15%減、2050年70%減）



RITE DNE21+モデルによる分析

発電部門では、原子力、太陽光発電、二酸化炭素回収貯留（CCS）などが重要

# 地球温暖化防止と経済発展の両立に向けて

- ◆ 長期的に大幅な排出削減が必要：近代文明の基盤であるエネルギーシステムの大変革が必要
- ◆ バランスのとれた排出削減目標を（時間軸、空間軸）
- ◆ グリーン・ニューディールの現状：景気対策、エネルギーセキュリティ強化の側面が強い
- ◆ エネルギー対策は技術代替になりやすく、社会全体の効用の増大につながりにくい
- ◆ 経済発展との両立につなげていくには、
  - 革新的な技術開発・普及：その際には単独の技術ではなく、システムとしての開発を指向すべき、温暖化対策以外の効用増大も同時に目指すべき
  - 国民・社会の意識変革が必要：温暖化防止のためにその費用を積極的に受け入れるような意識変革が実現しなければ、温暖化防止の対策は正味では経済発展を阻害する要素に留まる。意識が変わったとき、そこに新たな効用が生じ、温暖化対策は経済発展を促す要素に変わり得る。